

NPO法人 俳句甲子園実行委員会 (E-mail:info@haikukoushien.com)  
〒790-0814 愛媛県松山市味酒町1丁目10-2  
TEL:089-943-1512(平日13:00~17:00) FAX:089-948-4819  
松山市役所 文化・ことば課 (E-mail:bunkakotoba@city.matsuyama.ehime.jp)  
〒790-8571 愛媛県松山市二番町四丁目7番地2  
TEL:089-948-6952(平日8:30~17:15) FAX:089-934-1287

今年は、地方大会の個人表彰に子規・漱石生誕150年記念賞を加え、全国大会への特別推薦枠を設けるなど、記念大会ならではの様々な企画で、たくさんのエントリーをお待ちしております。

# 今詠める 最高の一句を

広島県立広島高校OG 榎本由貴

いよいよエントリーが始まった第20回俳句甲子園。今回は、広島高校OGの榎本由貴さんに大会に臨む皆さんへのエールを込めた文章を寄せていただきました。

第20回を数える大きな大会となった俳句甲子園。ここ4年ほど、大会を広めるお手伝いとして「俳句甲子園出張講座」に携わる中で、先生方や生徒の皆さんから「高校生らしい句」についてどう思われますか」と言われることがあつた。様々な不安から、問うてくださるのだろう。胸を張って言えるのは「安心して大会に出てください」ということだ。生徒たちの出した句が、「高校生らしくない」という理由で否定されることは絶対にない。なぜなら、20年の歴史の中で、審査員と関わる全てのスタッフは、生徒たちが「今詠める、

最高の一句」を妥協せずに考え、時に泣き、怒りながら、最後は出会った今後の人生の最高の友人となるだろう人たちと笑って大会を終えていくのを見てきたからだ。それ以上に「高校生らしい」ことがあるだろうか。確かにこの「何かに全力で一生懸命になれる瞬間は、高校生特有のものかもしれない。大人になると、自分に切りをつけてしまう瞬間もきつと訪れるから……。けれどもこの二つは、例えば野球でもサッカーでも変わらない。

「自分の才能やおかれている環境で妥協しなくていい」

「全力で努力して、いいもの」を示せば、それを受け止めてくれる場所がある。支えてくれる大人がいる。」

「これが、高校生の特権だ。私は、これを経験させてもらえたからこそ、進路を教職に決め、俳句甲子園に関わり続けている。自分のために泣いてくれた顧問の先生、支えてくれた友人……。この素晴らしい経験を、次の世代にも。大会の成績は芳しくはなくても、得たものは何よりも尊いと胸を張れる。俳句もサッカーも、人生の最高の糧となる。」

「高校生らしさ」。これは前衛、伝統から始まって、句まがたりや口語体など、文体や技巧の話ではない。どれだけの皆さんの句集を読み、友と語り合い、時に先生や先輩と喧嘩して、「いい句」を目指せるか。一生懸命になれるか。そういう、こころの部分なのだ。その尊いひと夏、あるいは三年間の中で生まれた一句は、「高校生らしい」という言葉では片づけられない。提出句の中から最優秀賞を決めるのに、審査員の先生方は毎年苦勞しておられると聞く。どれも「いい句」だからだ。20年の歴史は「俳句」と「青春の場」と、二つの意味で大会を成長させている。だから、「高校生らしさ」に縛られなくていい。

高校生の、自分に妥協しない一句を、「高校生らしい」と夏を用意して、俳都松山は待っている。

## エントリー締切は5月9日(火)正午!!

地方大会 兼題

「陽炎」(かげろう)(春・天文)

「石鱖玉」(しやぼんだま)(春・人事)

「立夏」(りっか)(夏・時候)

■全国大会特別推薦枠

第20回を記念し、全国大会出場チーム数を40に拡大します。4チーム増のうち、1チームは前回優勝の開成高校、3チ

ームは学校や文芸部の特色、俳句活動の工夫などに地方大会・投句審査の成績を加味し、選出します。エントリー校は「特別推薦枠記入用紙」を提出ください。